Motricity Index（MI）

01 実施条件・項目別の観察と得点

対象者ID：_____ 評価日：____年___月___日 時刻：____：____

評価者：_____ 評価側：右・左 発症日：____年___月___日

本票は原用紙・採点基準の翻訳転載ではありません。原資料の基準で判定した結果を記録します。採点基準表は収載していません。判定できない項目を0点で埋めないでください。

実施条件：姿勢・支持／立方体の寸法／靴・装具／介助・声かけ／試行・休憩

項目	得点	実際の動き・抵抗・代償／未実施の理由
つまみ動作		
肘関節屈曲		
肩関節外転		
足関節背屈		
膝関節伸展		
股関節屈曲		

集計：各3項目が評価できた肢のみ計算。欠測の代入・比例換算はしません。

上肢素点（3項目合計）：_____ /99　下肢素点（3項目合計）：_____ /99

採用する加点方式・参照版：_____

上肢得点：_____　下肢得点：_____　同側得点（上肢＋下肢）÷2：_____

本文の例は各肢の素点に一律＋1（1〜100点）。別方式の用紙と混同しないよう、上欄に方式を明記。片方の肢が未評価の場合、同側得点は算出しません。

原資料併用：Collin C, Wade D. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 1990;53:576–579. https://doi.org/10.1136/jnnp.53.7.576

Motricity Index（MI）

02 再評価・生活場面・申し送り

対象者ID：_____ 評価日：____年___月___日 時刻：____：____

評価者：_____ 評価側：右・左 発症日：____年___月___日

比較時は同じ採点版・加点方式を使います。姿勢、可動域、疼痛、疲労、理解、介助条件の違いを残し、得点差だけで回復や生活の自立を判断しません。

日付	上肢	下肢	同側	条件の変更・主な所見

変化した動作と判断理由：どの項目が、どの条件で変わったか

生活場面で別に確認したこと：物品操作・更衣・移乗・歩行など

申し送り／次回確認：疼痛・可動域・支持・装具・追加評価・練習条件

運用メモ：未実施・判定不能は理由を文章で記録するための状態表示であり、MIの正式な得点コードではありません。新たな脱力・神経症状では採点を続けず医療対応を優先します。

原資料併用：Collin C, Wade D. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 1990;53:576–579.
https://doi.org/10.1136/jnnp.53.7.576